



県がすすめている取り組みを紹介します！

石木ダムの早期完成に向けて

近年、気候変動の影響により、全国的にも「令和2年7月豪雨」「令和元年東日本台風」など、大規模な自然災害が頻発・激甚化しています。今後、本県においても、これまで経験したことのない災害が起こる恐れもあり、防災・減災対策の重要性が一層高まっています。

そのような中、石木ダム事業は、川棚川の洪水被害を軽減するための治水対策、佐世保市に安定した水源を確保するための利水対策という目的で建設を進めています。

石木ダムの概要

事業費 285億円

- 目的 ①川棚川の洪水調節(治水)
- ②佐世保市の安定水源確保(利水)
- ③維持流量、既得農業用水等の補給

【用地の進捗状況】 ■ 移転した家屋 移転していない家屋



※約8割の地元住民の皆さんの大切な土地をお譲りいただいています



石木ダム完成予定イメージ図

石木ダム早期完成を期待する声

平成2年の豪雨の時は、店の商品などを高いところに移そうと一旦考えたが、やはり命の方が大事と思い直し避難した。

翌日、店に行くと、床上50cm位の所まで泥水が来ていた。商店街の皆さんの中には避難経路にある2つの橋がどちらも通行止になっており、避難したくても避難できなかったそうだ。次からはもっと早く避難しなければと思うのと同時に、石木ダムが出来れば、こんなこともないのにと考える。

(川棚町 自営業:男性)

昔は大雨が降っても、遊水地となるような土地に水がたまっていたが、現在はそのような土地が少なくなっており、大きな被害が発生しないか心配している。

また、近年は異常気象続きで、今年の台風10号のような大型台風が毎年来るのかと思うと怖く、石木ダムが早く完成してほしいとつくづく思っている。

(川棚町 無職:男性)

工事の進捗状況

現在の県道は、ダム本体工事が進むと通れなくなるため、新たな道路となる付替県道の工事を行っています。また、今年度中に、ダム本体工事の一部に着手することを予定しています。

今後も令和7年度のダム完成に向けて、切れ目なく工事を進めていきます。



平成30年1月



令和2年9月

付替県道工事着手時と現在の比較

司法の判断

事業認定の取り消しが争われた裁判については、今年10月、最高裁判所において、上告を棄却し、上告審として受理しない旨の決定がなされ、福岡高裁による請求棄却の判決が確定しました。

問合せ 県の河川課 ☎095-894-3086 長崎県河川課 検索



株式会社ヤマジョウ
(雲仙市)

お話を伺ったのは
代表取締役
みやざき かずひろ
宮崎 和洋さん

橘湾の「エタリ」で煮干しなどを生産

雲仙市小浜町北部の富津地区は、波穏やかな橘湾で育った良質のエタリ(カタクチイワシ)が水揚げされるため、昔からおいしい煮干し(イリコ)の産地として有名です。当社は1952年に私の祖父が創業し、当初は水産加工製品の卸売業をしていましたが、その後、富津漁港近くに加工場を開設。煮干しを主力としながら、トコロテンからサバ寿司に至るまで、さまざまな水産加工品の製造・販売を行っています。



富津漁港。橘湾の恵みを受けて育った良質な魚介類が水揚げされる



貝殻や海藻などの異物は人の手で念入りに除去された上で出荷される

ライフスタイルの変化に合わせた商品開発

現在、煮干しの生産は年間約6千トンで、国内の大手煮干しメーカーなどと取引しています。また、現代人のライフスタイルに合わせた商品の開発に十数年前から本格的に取り組んでおり、手軽なだしパックやおやつ感覚で食べる煮干し、コーヒーや紅茶感覚で飲むあごだしなどが特に好評です。また、県の補助制度を活用して、既存商品の内容量やパッケージを改良し、ギフト商品としてリニューアルするといった取り組みも行いました。



県内で頑張っている企業や人にエール(応援)を送ります!

小浜の知名度アップにつながる会社を目指す

当社の製品は素材にこだわり、可能な限り保存料・化学調味料は使用しません。また、隠し味に地元特産のエタリの塩辛を熟成させて作った魚醤を使うなど工夫を重ね、味には絶対の自信を持っています。長年培ってきた技術とアイデアから生まれたこだわりの商品を、より多くの方に知っていただくため、県外での販路拡大やオンラインショップの運営にも取り組んでいます。地域に貢献し、若い人たちに「ここで働きたい」と思ってもらえるような会社を目指しています。



長崎県水産加工振興祭で審査委員長特別賞を受賞した「いかの花造り」「飲むあごだし」をはじめとする商品は、県内の小売店のほか、全国のデパートやスーパーなどでも販売



皆様の口に入るものだから、商品一つ一つを大事にしたい